

ツール・ド・佐伯2023の開催のため サイクリストにご注意ください!

10月8日(日)に佐伯市にて自転車イベント「ツール・ド・佐伯2023」が開催されます。コースの一部に津久見市内の道路が含まれており、多くのサイクリストが車道を走行します。コース付近の住民や周辺を通行する予定のある方はご注意ください。

- 日時
令和5年10月8日(日)
- 通行時間
10:45~14:30(予定)



【問い合わせ】 佐伯サイクルツーリズム推進協議会事務局(佐伯市観光課内)
TEL:0972-22-4071 E-mail:tourism@city.saiki.lg.jp

「文化財保存活用地域計画」総合調査から①

津久見扇子踊り —夏の終わりに彩りを添える扇子の舞—

「文化財保存活用地域計画」の調査をはじめます。調査に際しては、事前に『津久見市誌』をはじめとした文献や過去の調査記録などから、市内に残っている文化財を抽出し、リスト化(およそ800件)したものを中心に調査を行っていくことにしています。中には、津久見ならではの文化財や、今まで気がつかなかった新たな発見もあるのではないかと期待しています。今月からは、そうした調査の経過や成果を随時お知らせしていきたいと思っています。

第1回目は、津久見のお盆の行事として大切な「津久見扇子踊り」(大分県無形民俗文化財)について紹介します。

ご存知のとおり、毎年、市内各所で行われてきた盆踊りは、新型コロナウイルス感染症防止のため自粛を余儀なくされてきましたが、今年、3年ぶりに開催されました。聞きなれた太鼓や囃子の音が遠くから聞こえてくると、何となくホッとした気持ちになった方も多かったのではないのでしょうか。津久見の晩夏を彩る伝統行事として今なお大切に踊り継がれているのです。

そもそもこの扇子踊りは、江戸時代の後期から継承され、盆供養の行事として踊られてきました。津久見扇子踊り保存会では、「今から約四百年前の昔、津久見は大友氏の支配下にあり、当時警固のため駐屯した隣国に対する警戒任務精励のかたわら、戦没した勇士・農民の供養のために、地区民とはかり供養踊りをはじめた……」としています。

扇子を巧みに操り、勇壮な武士の所作をあらわすその舞姿はとても優美で、格調高く、長く市民の誇りとされてきました。

しかし、近年、供養踊りとしての粋を飛び出し、公共イベントとしての側面をもつなど、芸能として独立してきている観があります。その代表的な催しが8月の「津久見扇子踊り大会」です。60回目となる今年も、夏の間、地区の盆踊り大会などに合わせて、練習を重ねてきた市内20団体500名を超える人たちが優雅な舞を見せ、多くの観客を魅了しました。

津久見市の伝統文化の象徴とされてきたこの扇子踊り、未永く踊り継いでいって欲しいものです。



●津久見市教育委員会 生涯学習課
文化財保存活用地域計画担当
TEL 0972-82-9528 FAX 0972-85-0081